

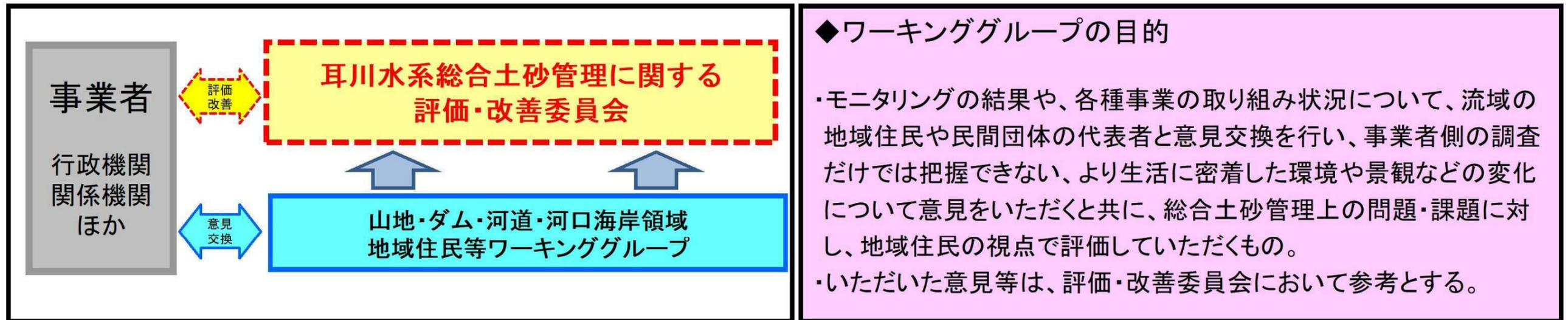
耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

第12回 ワーキンググループ議事要旨及び評価結果等

目 次

ワーキンググループの概要	1
＜第12回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 議事要旨＞	
1. 議事次第	2
2. 議事要旨	4
3. WGでの意見を踏まえた「問題・課題評価シート」及び「耳川通信簿」	8
4. 開催状況	14
ワーキンググループ アンケート結果.....	15

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 ワーキンググループの概要



ワーキングの進め方



耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

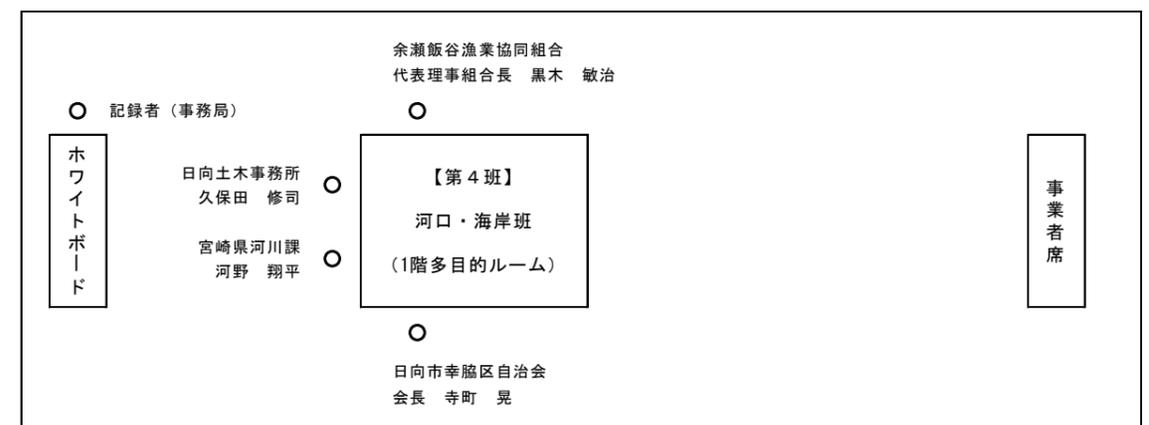
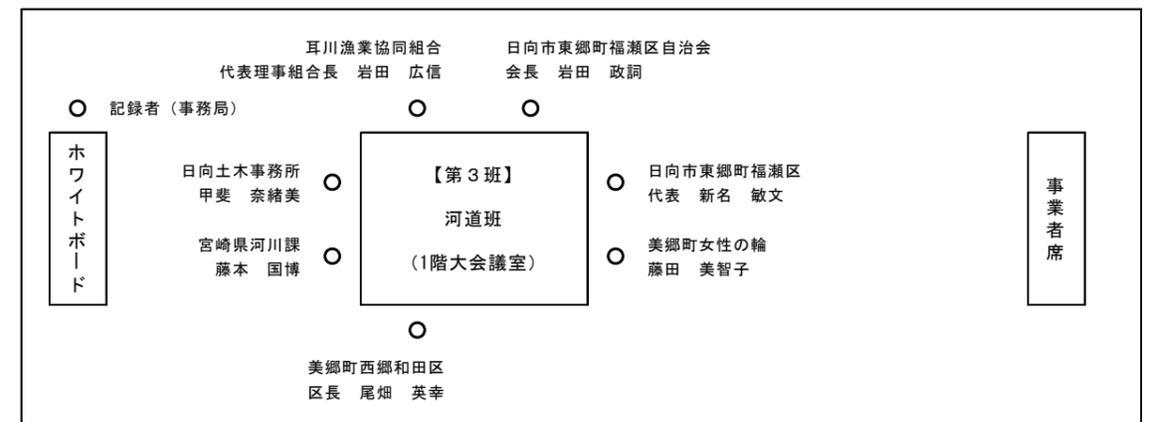
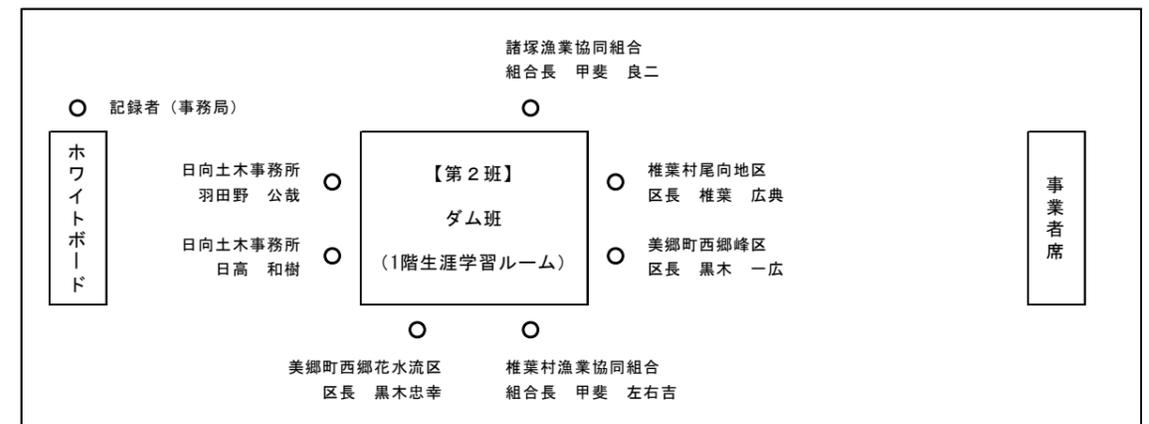
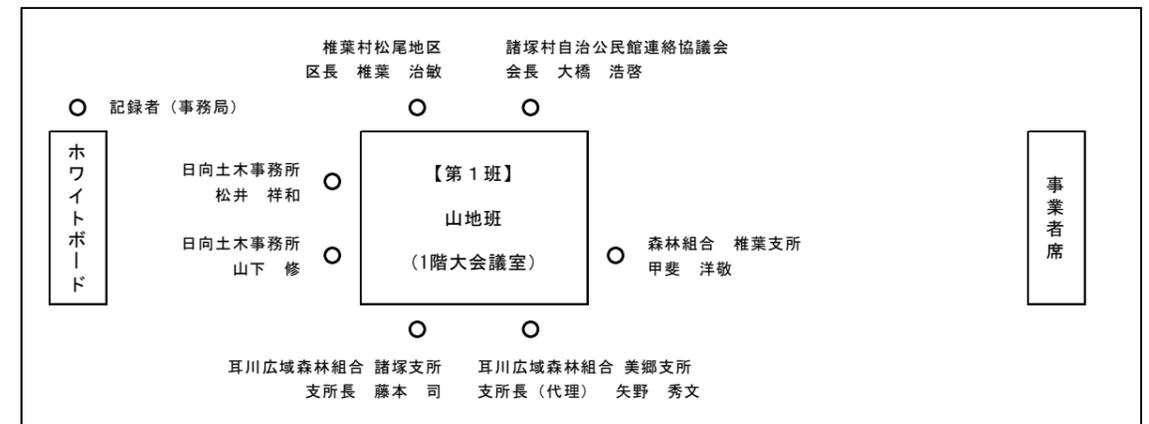
第12回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ

日時 : 令和6年3月14日(木)
13:30 ~ 16:00
場所 : 美郷町西郷ニューホープセンター

議事次第

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 耳川水系総合土砂管理計画について
4. 第2回中間とりまとめの結果報告について
5. 第12回評価・改善委員会（令和5年7月）での指摘について
6. 今年度の耳川流域の概況・ダム通砂運用の結果報告
7. グループ討議
(耳川の取組み状況の説明及び評価に対する意見のとりまとめ)
8. 全体発表
9. アンケート
10. 閉会

配置図



第12回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 出席者名簿

	区 分	所 属	役職名	氏 名	備考	【第1班】 山地班	【第2班】 ダム班	【第3班】 河道班	【第4班】 河口・海岸班
1	関係機関	日向市漁業協同組合	組合長 (代理)	黒木 俊夫	欠席				○
2	関係機関	美幸内水面漁業協同組合 (日向市美々津町)	代表理事組合長	黒木 隆太	欠席				○
3	関係機関	余瀬飯谷漁業協同組合	代表理事組合長	黒木 敏治					○
4	関係機関	耳川漁業協同組合 (日向市東郷町)	代表理事組合長	岩田 広信				○	
5	関係機関	西郷漁業協同組合(美郷町)	事務局長	森川 吉太郎	欠席		○		
6	関係機関	諸塚漁業協同組合(諸塚村)	組合長	甲斐 良二			○		
7	関係機関	椎葉村漁業協同組合(椎葉村)	組合長	甲斐 左右吉			○		
8	関係機関	耳川広域森林組合	代表理事組合長	平野 浩二	欠席	○			
9	住民代表	日向市東郷町福瀬区自治会	会 長	岩田 政詞				○	
10	住民代表	日向市東郷町福瀬区	代 表	新名 敏文				○	
11	住民代表	日向市幸脇区自治会	会 長	寺町 晃					○
12	住民代表	美郷町西郷峰区	区 長	黒木 一広			○		
13	住民代表	美郷町西郷和田区	区 長	尾畑 英幸				○	
14	住民代表	美郷町西郷坂本区	区 長	西村 幸次郎	欠席			○	
15	住民代表	美郷町西郷下区	区 長	山崎 美津夫	欠席			○	
16	住民代表	美郷町西郷花水流域	区 長	黒木 忠幸			○		
17	住民代表	美郷町女性の輪	代 表	藤田 美智子				○	
18	住民代表(林家)	諸塚村家代	代 表	西田 正	欠席	○			
19	住民代表	諸塚村自治公民館連絡協議会	会 長	大橋 浩啓		○			
20	住民代表	椎葉村尾向地区	区 長	椎葉 広典			○		
21	住民代表	椎葉村松尾地区	区 長	椎葉 治敏		○			
22	関係機関	耳川広域森林組合 椎葉支所	支所長	甲斐 洋敬		○			
23	関係機関	耳川広域森林組合 諸塚支所	支所長	藤本 司		○			
24	関係機関	耳川広域森林組合 美郷支所	課長補佐	矢野 秀文	代理出席	○			

<事務局>						【第1班】 山地班	【第2班】 ダム班	【第3班】 河道班	【第4班】 河口・海岸班
1	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課	課 長	山下 修		○			
2	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	リーダー	久保田 修司					○
3	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	主任技師	岩切 謙介	欠席				
4	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	主 査	甲斐 奈緒美				○	
5	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 河川担当	技 師	日高 和樹			○		
6	関係行政機関	日向土木事務所 道路課 道路保全担当	リーダー	出井 美穂子	欠席				
7	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 砂防担当	リーダー	松井 祥和		○			
8	関係行政機関	日向土木事務所 河川砂防課 ダム担当	リーダー	羽田野 公哉			○		
9	関係行政機関	宮崎県 県土整備部 河川課 計画調査担当	主 幹	藤本 国博				○	
10	関係行政機関	宮崎県 県土整備部 河川課 計画調査担当	技師	河野 翔平					○

<事業者>					
1	関係行政機関	日向土木事務所 諸塚駐在所	所 長	福元 博	
2	関係行政機関	日向土木事務所 椎葉駐在所	所 長	前田 勉	
3	関係行政機関	宮崎北部森林管理署	総括治山技術官	石本 敏隆	
4	関係行政機関	宮崎北部森林管理署	総括森林整備官	原口 尚也	欠席
5	関係行政機関	宮崎北部森林管理署 上椎葉森林事務所	首席森林官	岩上 勇	欠席
6	関係行政機関	宮崎北部森林管理署 東郷森林事務所	森林官	引地 修一	欠席
7	関係機関	九州電力(株) 耳川水力整備事務所 副所長 兼ダム計画・工事グループ	副所長	小柳 晋太郎	
8	関係機関	九州電力(株) 宮崎支店 技術部	部 長	山口 健太郎	欠席
9	関係行政機関	北部港湾事務所 工務課 建設担当	リーダー	福永 宏一	
10	関係行政機関	宮崎県 企業局 北部管理事務所	副主幹	(代理)福島 周作	
11	関係行政機関	東臼杵農林振興局 林務課 林政担当	主査	(代理)甲斐 央浩	
12	関係行政機関	東臼杵農林振興局 森林土木課 治山担当	リーダー	竹本 俊夫	
13	関係行政機関	東臼杵農林振興局 森林土木課 森林路網担当	リーダー	山本 進也	
14	関係行政機関	農政水産部 水産政策課 漁村振興担当	技師	(代理)中武 邦博	
15	関係行政機関	農政水産部 漁業管理課 資源管理担当	技師	(代理)那須 春香	
16	関係行政機関	東臼杵農林振興局 諸塚駐在所	所 長	山口 裕二	
17	関係行政機関	東臼杵農林振興局 椎葉駐在所	所 長	河野 淳二	
18	関係行政機関	日向市 建設部 建設課 土木建設係	課長補佐 兼係長	日吉 知博	
19	関係行政機関	日向市 市民環境部 環境政策課	課長補佐	奥原 孝雄	
20	関係行政機関	日向市 農林水産部 林業水産課	課長補佐	矢野 貴之	
21	関係行政機関	日向市 農林水産部 農業畜産課	課長補佐	東田 誠	
22	関係行政機関	日向市 上下水道局 水道課	課長補佐	黒木 郁志	
23	関係行政機関	日向市 農林水産部 林業水産課	係 長	矢野 隆博	
24	関係行政機関	日向市 総務部 防災推進課	係 長	佐藤 秀明	
25	関係行政機関	椎葉村 建設課 道路管理グループ	課長補佐兼 グループ長	椎葉 友和	欠席
26	関係行政機関	椎葉村 農林振興課 林業推進室	課長補佐 兼室長	中瀬 育生	欠席
27	関係行政機関	諸塚村 産業課	課長補佐	甲斐 由高	欠席
28	関係行政機関	諸塚村 建設課	課長補佐	橋口 政憲	欠席
29	関係行政機関	美郷町 農林振興課 林政担当	主任技師	又江原 徹	欠席
30	関係行政機関	美郷町 建設課 管理担当	主事	海野 紗香	欠席

2. 議事要旨

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第12回山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【山地班】 議事要旨				
項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(1) 崩壊地からの土砂流出状況	①	裸地の管理について、樹木の伐採後適切に植林は実施されているのか。 →現状100%近い植林が実施されているが、今後高齢化等による影響が懸念されている。	①	今後の評価の参考にさせて頂く。
	②	河道縦横断の評価について、耳川河口から13km付近(滝下地区)で、河積の変化率が高くなっている原因は何か。	②	河道の形状によって、土砂のたまり方に影響を与えた可能性がある。
	③	裸地面積の項目では崩壊地の状況について良い評価がされていたが、ヒアリングでは悪い評価となっているのはなぜか。	③	裸地面積の評価は画像で定量的に評価しているが、ヒアリングは個人で感じるものになるため、評価に違いが出ることもある。
(2) 土石流等の土砂災害の発生状況	④	災害の発生状況について良い状態と評されているが、浸水被害が出ている状況を踏まえると、良い状態という評価は違和感がある。	④	ここでの評価は山での土石流なので、浸水被害は評価されていない。良い状態という言葉に違和感があるという点については今後の評価の参考とさせて頂く。
(3) 自然景観		事務局案で了承する。		
(4) 生物生息生育環境の変化		事務局案で了承する。		
(5) 産業基盤の状況	⑤	ここで評価している路網には、管理基準がない小規模な作業道は入っていないのではないかと。また、管理道と作業道を使い分けたらどうか。 →一部の搬出路等は集計されていないものの、伐採パトロールを実施するなど適切に管理されるようにしている。使い分けについては、管理基準に則った作業道も存在し使い分けは難しい。	⑤	今後の評価の参考にさせて頂く。
(6) 渇水緩和機能の状況		事務局案で了承する。		
(7) 洪水緩和機能の状況		事務局案で了承する。		
(8) 砂防施設容量		事務局案で了承する。		
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第12回山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【ダム班】 議事要旨

項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(9) 貯水池末端部 治水安全度	①	大内原ダム付近では昨年度水害があったのに普通状態なのはなぜなのか。	①	この項目では堆砂による背水があったかどうかを判断基準としており、大内原ダムにおいて、今年度はダム堆砂を原因とする背水が起こっていないことから普通状態としている。
(10) 利水容量	②	利水容量の減少による直接的な生物への影響はあるのか。	②	多少は影響しているかもしれないが、利水容量の減少という項目からは生物への評価は難しい。
(11) 取水機能の維持	③	ダム堆砂の方向性評価は、諸塚ダム以外は改善傾向でもよいのではないか。	③	評価手法に基づいて実施することが重要であることから、評価は維持傾向のままとさせていただく。
	④	ダム上流側で堆積が進んでいるのにa判定なのはなぜか。	④	取水に影響を与える堤体付近では岩屋戸ダム以外堆積が進行していないことからa評価としている。
(12) 放流設備機能 の維持	⑤	上椎葉ダム上流の左岸側には、貯水池内に流木が多数ある。	⑤	流木処理実績での状態評価のため、現状と乖離する場合がある。
(13) 利水設備機能 の維持				
(14) 生物生息生育環境 の変化	⑥	諸塚より上流で水質調査を行っているのか。	⑥	通砂の影響を把握することを目的としていることから、諸塚ダム及び塚原ダム上流では水質調査を行っていない。
(15) 生物生息空間の 連続性		事務局案で了承する。		
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第12回山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【河道班】 議事要旨

項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(16) 付着藻類の変化		事務局案で了承する。		
(17) 河川景観の変化	①	大内原ダム下流は、土砂堆積や河岸浸食により、河川景観が悪くなっている。	①	頂いた意見を基に一部評価を修正させていただく。(状態評価:a→b)
(18) 生物生息生育環境の変化	②	西郷ダムの下流は岩が出ていて、細かい石がまだない箇所が多い。	②	今後の評価の参考にさせて頂く。
	③	R4は川の土砂は溜まらなかったが、R5は和田橋下流で土砂が溜まった。	③	今後の評価の参考にさせて頂く。
	④	R4・R5のアユの漁獲量が減っている。川の濁りの影響で、アユの餌となる藻類が石についていない。また、土砂が大きな石の間に溜まって、ウナギの生息が減っている。土砂が堆砂したことで、アユを含めて生態系に影響を及ぼしていると考えられる	④	今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑤		⑤	「五感を使った簡易検査」について、大人も参加できるようにしていく。
(19) 瀬・淵の状況		事務局案で了承する。		
(20) 橋脚の安定性	⑥	東郷橋は橋梁工事を行っているため、安全性に変化が出ている可能性があり、今後注視する必要がある。	⑥	今後の評価の参考にさせて頂く。
(21) 護岸基礎部の安定性		事務局案で了承する。		
(22) 取水の安定性	⑦	上水道の取水については、R4.9出水に伴う土砂堆積により水位が増し、ポンプアップの必要がなくなっている。 工業用水の取水については、取水口の中に土砂や流木が溜まることもあり、その度に除去等を行っているため、安定した取水が行われている訳ではない。	⑦	今後の評価の参考にさせて頂く。
(23) 治水安全度	⑧	河道掘削後の残土処理をする場所がないため、処理した土砂の有効活用を進めて欲しい。	⑧	今後の課題とさせて頂く。
(24) 氾濫発生時の被害状況	⑨	河川の掘削を定期的に行っているため、浸水被害が発生しなくなった。 人家の被害だけでなく農地の被害は発生しているため、引き続き注視していただきたい。	⑨	今後の評価の参考にさせて頂く。
領域の目標に対する評価		事務局案で了承する。		

耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会 第12回山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ【河口海岸班】 議事要旨

項目	委員からの意見内容		事務局の回答内容	
(25) 生物生息生育環境の変化	①	出水後の海域の濁りの状態が悪く、長期間続いた。中流域の土砂崩れの影響があるのではないか。	①	今後の評価の参考にさせて頂く。
	②	濁水の長期化により、藻場やイセエビなどの漁場環境が悪くなっている。	②	今後の評価の参考にさせて頂く。
	③	5月にアユを放流しているが濁水の長期化により、生育状況が悪かったため、10月に子持ちアユの放流を実施した。	③	今後の評価の参考にさせて頂く。
	④	藻場の状態評価は普通状態となっているが、出水で流れてきたシルトによって、海藻類の生育状況が悪くなっている可能性があるため、注視していただきたい。	④	今後の評価の参考にさせて頂く。
(26) 防災機能の維持	事務局案で了承する。			
(27) 親水空間の確保	事務局案で了承する。			
(28) 港湾施設の機能維持	⑤	出水後は、潮が引くと底が見えるくらい土砂が堆積し、大きい船が沖に出られない状況であった。	⑤	今後の評価の参考にさせて頂く。
	⑥	海域の堆積状況を見ると令和5年度は相当な土砂が流出したと思う。	⑥	今後の評価の参考にさせて頂く。
(29) 治水安全度	事務局案で了承する。			
(30) 船舶の航行(操業上)の安全確保	事務局案で了承する。			
(31) 海岸環境の変化	事務局案で了承する。			
(32) 漁業の操業環境	事務局案で了承する。			
(33) 氾濫発生時の被害状況	事務局案で了承する。			
領域の目標に対する評価	事務局案で了承する。			

3. WGでの意見を踏まえた「問題・課題評価シート」及び「耳川通信簿」

WG後の評価結果

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態		方向性	状態		
山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	A	b	△	事務局案で了承する。 伐採後適切に植林は実施されているのか。 →現状100%近い植林が実施されているが、今後高齢化等による影響が懸念されている。	A	b	△
		12.ダム堆砂	5	主	至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅内にあることから「普通状態」と評価される。	C	b		事務局案で了承する。	C	b	
		5.河道縦横断	7	主	状態は基準年と比較すると、「普通状態」と評価される。	-	b		事務局案で了承する。 河口から13km(滝下地区)地点で、河積の変化率が高くなっている原因は何か。 →河道の形状によって、土砂のたまり方に影響を与えた可能性がある。	-	b	
		25.土砂除去量(河道・河口海岸)	14	主	状態は基準年の変動幅を上回ることから「悪い状態」と評価される。	-	c		事務局案で了承する。	-	c	
		30.ヒアリング	15		森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。 裸地面積の項目では崩壊地の状況について良い評価がされていたが、ヒアリングでは悪い評価となっているのはなぜか。 →裸地面積の評価は画像で定量的に評価しているが、ヒアリングは個人で感じるものになるため、評価に違いが出ることもある。	C	c	
	(2)土石流等の土砂災害の発生状況	14.土石流危険渓流整備(土砂災害発生状況)	18		(参考:令和4年度評価) 土砂災害発生件数が至近3年間の変動幅を上回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	C	a	△	事務局案で了承する。 災害の発生状況について良い状態と評価されているが、浸水被害が出ている状況を踏まえると、良い状態という評価は違和感がある。 →ここでの評価は山での土石流なので、浸水被害は評価されていない。良い状態という言い方に違和感があるという点については今後の評価の参考とさせていただきます。	C	a	△
		15.保安施設整備(土砂災害発生状況)	18									
	(3)自然景観	17.写真観測(自然景観)	21		大規模崩壊跡地の方向性は、至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、森林管理者へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	A	c	△	事務局案で了承する。	A	c	△
		17.写真観測(親水景観)	21		前年度と比較して、一部地点を除き大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートの全体の平均は2.7点となり、総合的に「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a	
		30.ヒアリング	28		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-		事務局案で了承する。	-	-	
	(4)生物生息生育環境の変化	30.ヒアリング	31		ヒアリングの結果、総合的に「悪化傾向」及び「悪い状態」と評価される。	C	c	×	事務局案で了承する。 アユを捕食するカワウが増えてきており、魚類が減ってきている。	C	c	×
	(5)産業基盤の状況	11.裸地面積	34		至近3年間の変動幅を下回ることから「改善傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	A	b	△	事務局案で了承する。	A	b	△
		27.流木処理実績	35		至近3年間と比較すると変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a		事務局案で了承する。	-	a	
		26.漂着物量(河道・河口海岸)	36		至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c	
		16.路網密度	37		(参考:令和4年度評価) 耳川計画区で微増していることから「改善傾向」と評価される。『第八次宮崎県森林・林業長期計画』令和7年目標値(39.7m/ha)を上回っていることから「良い状態」と評価される。	A	a		事務局案で了承する。 ここで評価している路網には、管理基準がない小規模な作業道は入っていないのではないか。また、管理道と作業道を使い分けたらどうか。 →一部の搬出路等は集計されていないものの、伐採パトロールを実施するなど適切に管理されるようにしている。使い分けについては、管理基準に則った作業道も存在し使い分けは難しい。	A	a	
		30.ヒアリング	38		山林及び作業道の管理について、森林管理者へのヒアリングの結果、総合的に「維持傾向」及び「普通状態」と評価される。	B	b		事務局案で了承する。	B	b	
	(6)湯水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△
	(7)洪水緩和機能の状況	13.流況	41		至近3年間と比較して「維持傾向」と評価される。状態は基準年と比較して同程度であることから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。	B	b	△
(8)砂防施設容量	23.写真観測(砂防施設)	50		前年度と比較すると、余裕率が若干減少していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、水通し天端の上まで堆積していないことから「良い状態」と評価される。	C	a	△	事務局案で了承する。	C	a	△	

着色凡例

黄色	: 治水面(防災面)
水色	: 利水面(水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】A: 改善傾向, B: 維持傾向, C: 悪化傾向
【状態】a: 良い状態, b: 普通状態, c: 悪い状態

評価凡例

○: 問題なく良いレベル
△: 普通のレベル
×: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	12ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。 大内原ダム付近では昨年度水害があったのに普通状態なのはなぜなのか。 →この項目では堆砂による背水があったかどうかを判断基準としており、今年度は大内原ダムにおいてダム堆砂を原因とする背水が起こっていないことから普通状態としている。	B	b	△	
	(10)利水容量	12ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。 利水容量の減少による生物への影響はあるのか。 →多少は影響しているかもしれないが、利水容量の減少という項目からは生物への評価は難しい。	B	c	×	
	(11)取水機能の維持	12ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	○	事務局案で了承する。 ダム堆砂の方向性評価は、諸塚ダム以外は改善傾向でもよいのではないかと。 →評価手法に基づいて実施することが重要であることから、評価は維持傾向のままとさせていただきます。 ダム上流側で堆積が進んでいるのにa判定なのはなぜか。 →取水に影響を与える堤体付近では岩屋戸ダム以外堆積が進行していないことからa評価としている。	B	a	○	
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	27		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 ダム領域評価：「△」	事務局案で了承する。 上椎葉ダム上流の左岸側には、貯水池内に流木が多数ある。 →流木処理実績での状態評価のため、現状と乖離する可能性がある。	-	a	○
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	27		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	-	a	○	【評価コメント】 令和5年度は、水質、ヒアリング(漁獲量(内水面))に関して「悪化傾向」、また水質、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料、魚類)で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	事務局案で了承する。 上椎葉ダム上流の左岸側には、貯水池内に流木が多数ある。 →流木処理実績での状態評価のため、現状と乖離する可能性がある。	-	a	○
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	-	-			事務局案で了承する。	-	-	
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		椎原橋において至近3か年を上回る濁水長期化日数を示していることから「悪化傾向」と評価される。出水時の濁水長期化の目安の期間(2~3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから、濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×	事務局案で了承する。 水質調査を諸塚より上流で行っているのか。 →通砂の影響を把握することを目的としていることから、諸塚ダム及び塚原ダム上流では水質調査を行っていない。	C	c	×	
		6.魚類	39		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c						
		7.底生動物	42		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-						
		8.付着藻類	44		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-						
		30.ヒアリング	46		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-						
		6.漁獲量(内水面)	47		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c						
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	50		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリング結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。	B	c	×	
		6.魚類	52		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
7.底生動物		54		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	-	-	事務局案で了承する。		-	-			

着色凡例

黄色	: 治水面 (防災面)
水色	: 利水面 (水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A : 改善傾向, B : 維持傾向, C : 悪化傾向
【状態】 a : 良い状態, b : 普通状態, c : 悪い状態

評価凡例

○ : 問題なく良いレベル
△ : 普通のレベル
× : 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2	付着藻類(出水時)は、出現種数及びクロロフィルaは至近3回の調査結果の変動の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。付着藻類の状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。	B	c	×	
		30.ヒアリング	5	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7	河川景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	大内原ダム下流は、土砂堆積や河岸浸食により、河川景観が悪くなっている。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価a→b)	B	b	△	
		17.写真観測(親水景観)	7	親水景観は、前年度から大きな変化はなく、「維持傾向」と評価される。親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a			B	b		
	(18)生物生息生育環境の変化	1.水質	31	出水時の流量規模別濁度は、立石橋、八重原大橋で至近3年間(令和2年度、令和3年度、令和4年度)の変動幅を下回るが、濁水長期化の傾向を示していることから、水質は「悪化傾向」と評価される。水質の濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×	事務局案で了承する。	C	c	×	
		2.河床材料	37	河床材料は、各河川区間ともに大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。 西郷ダムの下流は岩が出ていて、細かい石がまだない箇所が多い。	B	c		
		4.河道形状	39	河道形状は、至近3年間の変動幅の範囲内であることから「改善傾向」と評価される。状態は、瀬と淵の合計数から「普通状態」と評価される。	A	b		事務局案で了承する。 R4出水では川の土砂は溜まらなかったが、R5出水では和田橋下流で土砂が溜まり瀬淵の状況が変わった。	A	b		
		6.魚類	43	アユやカマツカの個体数については、アユは福瀬小学校前、カマツカは東郷橋にて既往最大を記録したものの、その他地点ではほとんどが至近3年間(2020年度～2022年度(令和2年度～令和4年度))の変動幅の範囲内であること及びアユの産卵床についても同様の傾向であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。 R4、R5はアユの漁獲量が減っている。川の濁りの影響で、アユの餌となる藻類が石についていない。土砂が大きな石の間に溜まって、ウナギの生息が減っている。土砂が堆積したことで、アユを含めて生態系に影響を及ぼしていると考えられる。	B	c		
		7.底生動物	49	地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の低下傾向が確認されたものの、全体でみると至近3回と概ね同程度かやや増加傾向であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	-		事務局案で了承する。	B	-		
		8.付着藻類	51	2023年度(令和5年度)は、台風6号出水後、細胞数は濁水の影響によりほとんど増加していないが、出現種数及びクロロフィルaは至近3回の調査結果と同程度まで増加していることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
		9.河岸植生	52	前回調査からツルヨシ群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、全ての漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
		29.水質、底生動物	54	方向性は、至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。 「五感を使った簡易検査」について、大人も参加できるようにしていく。	B	a		
		30.ヒアリング	56	ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		6.漁獲量(内水面)	57	(参考:令和4年度評価)方向性は、至近3年間(令和元年度～令和3年度)と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	60	瀬・淵の数は、至近3年間の変動幅を上回ることから、「改善傾向」と評価される。令和5年度の早瀬と淵の数は、基準値の50%増減幅内であることから「普通状態」と評価される。	A	b	○	事務局案で了承する。	A	b	○	
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	62	状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。 東郷橋は橋梁工事を行っているため、安全性に変化が出ている可能性があり、今後注視する必要がある。	-	b	△	
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	62	橋脚基礎の状況に大きな変化は見られず、安全性に関して大きな問題はない。	-	-			-	-		
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	67	横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。 事務局案で了承する。	-	b	△	
		18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	67	護岸基礎部の状況に大きな変化は見られず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	-	-			-	-		
	(22)取水の安定性	1.水質	73	水質の方向性は水道原水のpHは至近3年間の変動幅の範囲内、濁度は至近3年間の変動幅を下回ることから「維持傾向」と評価される。状態は、設定した基準値の範囲内にあることから「良い状態」と評価される。濁度の状態は、設定した基準値の範囲内にあることから「良い状態」と評価される。	B	a	△	事務局案で了承する。	B	a	△	
5.河道縦横断		74	富島幹線水路は、大きな変化は見られないが、前年度同様、ポンプアップによる取水を行なっていることから「悪い状態」と評価される。	-	c	事務局案で了承する。 上下水道の取水については、R4.9出水に伴う土砂堆積により水位が増し、ポンプアップの必要がなくなっている。 工業用水の取水については、取水口の中に土砂や流木が溜まることあり、その度に除去等を行っているため、安定した取水が行われている訳ではない。		-	c			
24.写真観測(取水口堆砂状況)		74	取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	-	-	-		-				
(23)治水安全度	5.河道縦横断	77	横断測量及び写真観測の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	-	b	△	事務局案で了承する。 河道掘削後の残土処理をする場所がないため、処理した土砂の有効活用を進めて欲しい。	-	b	△		
	18.写真観測(河川状況、構造物基礎)	84	河川状況や構造物基礎の状況に大きな変化は見られない。	-	-		事務局案で了承する。	-	-			
(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	101	台風6号により河川の浸水被害が発生しなかったことから「維持傾向」と評価される。状態は、浸水被害発生可能性がある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度最大日流入量)と同等の流入量であったが、浸水被害は発生しなかったことから「良い状態」と評価される。	B	a	○	事務局案で了承する。 河川の掘削を定期的に行っているため、浸水被害が発生しなくなった。 人家の被害だけでなく農地での被害は発生しているため、引き続き注視していただきたい。	B	a	○		
	20.写真観測(洪水時流下状況)	102	台風6号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-			

【河道領域目標】
適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。

河道領域評価:『△』

【評価コメント】
令和5年度は、水質、河岸植生、漁獲量(内水面)で「悪化傾向」、付着藻類、水質、河床材料、漁獲量(内水面)、ヒアリング(付着藻類、河床材料)で「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河道領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	:治水面(防災面)
水色	:利水面(水利用面)
緑色	:環境面

個別評価凡例

【方向性】A:改善傾向, B:維持傾向, C:悪化傾向
【状態】a:良い状態, b:普通状態, c:悪い状態

評価凡例

○:問題なく良いレベル
△:普通のレベル
×:問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の問題・課題	モニタリング項目	説明頁	主従関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価※2
						方向性	状態			方向性	状態	
河口・海岸領域	(25) 生物生態生育環境の変化	1. 水質 (海域: 出水時)	3	概ね至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c	△	事務局案で了承する。 出水時の海域の濁りの状態が悪く長期間続いた。中流域の土砂崩れの影響があるのではないかと。	B	c	△	
		3. 底質 (海域: 出水時)	7	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。化学分析結果が全項目において汚れの目安以下であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a		
		6. 漁獲量 (海域)	9	至近3年間の変動幅を下回ることから、「悪化傾向」と評価される。状態は日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c		事務局案で了承する。 濁水の長期化により藻場やイセエビなどの漁場環境が悪くなっている。	C	c		
		6. 漁獲量 (内水面)	9	至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。(参考: 方向性は令和4年度評価)	C	c		事務局案で了承する。 5月にアユを放流しているが、濁水の長期化によりアユの生育状況が悪かったため、10月に子持ちアユの放流を実施した。	C	c		
		7. 底生動物 (海域: 出水時)	11	概ね至近3年間の調査結果の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。	B	-		事務局案で了承する。	B	-		
		10. 藻場 (海域)	13	至近3年間と比較して分布・密生範囲が拡大したことから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b		事務局案で了承する。 藻場の状態評価は普通状態となっているが、出水で流れてきたシルトによって、海藻類の生育状況が悪くなっている可能性があるため、注視していただきたい。	A	b		
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真 (汀線比較)	20	至近3回(平成26~28年)ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。(参考: 平成30年度評価)	A	a	○	事務局案で了承する。	A	a	○	
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測 (景観・親水)	23	令和4年度と比較して大きな変化は見られない。	-	-	○	事務局案で了承する。	-	-	○	
		28. 航空写真 (汀線比較)	25	至近3回及び基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。(参考: 平成30年度評価)	A	a	○	事務局案で了承する。	A	a	○	
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	28	状態は、基準年の変動幅を上回ることから「悪い状態」と評価される。	-	c	×	事務局案で了承する。 出水後は潮が引くと底が見えるくらい土砂が堆積し、大きい船が沖に出られなかった。海域の堆積状況を見ると令和5年度は相当な土砂が流出したと思われる。	-	c	×	
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31	基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	-	a	○	事務局案で了承する。	-	a	○	
	(30) 船舶の航行(操業上)の安全確保	5. 河道縦横断	36	確保率は96%であり、100%確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	-	c	×	事務局案で了承する。	-	c	×	
		25. 土砂除去量 (河道・河口海岸)	37	状態は、基準年の変動幅を上回ることから「悪い状態」と評価される。	-	c		事務局案で了承する。	-	c		
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	38	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		21. 写真観測 (海域漂流状況)	39	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	39	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	40	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」の回答を得た。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
		30. ヒアリング	41	日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
	(31) 海岸環境の変化	22. 写真観測 (海岸漂着状況)	44	台風6号発生後、写真観測ではほとんど流木の漂着は見られなかったが、漁協ヒアリングにおいて流木の漂着を確認した。	-	-	×	事務局案で了承する。	-	-	×	
		26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	45	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	B	c		事務局案で了承する。	B	c		
	(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量 (河道・河口海岸)	48	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	B	c	×	事務局案で了承する。	B	c	×	
		22. 写真観測 (海岸漂着状況)	49	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		20. 写真観測 (洪水時流下状況)	50	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-		事務局案で了承する。	-	-		
		6. 漁獲量 (海域)	51	至近3年間の変動幅を下回ることから、「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c		事務局案で了承する。	C	c		
	(33) 氾濫発生時の被害状況	31. 水害統計資料	54	令和5年度台風6号では、浸水被害発生の可能性のある流量(過去に浸水被害が発生した平成19年度最大日流入量)を同等の流入量があったが、浸水被害が見られなかったことから「維持傾向」、「良い状態」と評価される。	B	a	○	事務局案で了承する。	B	a	○	
20. 写真観測 (洪水時流下状況)		55	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られなかったが、ヒアリングによって、流木の漂着が確認された。	-	-	事務局案で了承する。		-	-			

【河口・海岸領域目標】
水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。

河口・海岸領域評価:『△』

【評価コメント】
令和5年度は、漁獲量、ヒアリング(漁獲量・漁業の操業環境)に関して「悪化傾向」、また土砂除去量、ヒアリング(漁獲量・漁業の操業環境)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。

着色凡例

黄色	: 治水面 (防災面)
水色	: 利水面 (水利用面)
緑色	: 環境面

個別評価凡例

【方向性】 A: 改善傾向, B: 維持傾向, C: 悪化傾向
【状態】 a: 良い状態, b: 普通状態, c: 悪い状態

評価凡例

○: 問題なく良いレベル
△: 普通のレベル
×: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和5年度）

WG後の評価結果

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R5		R4		R3		事務局評価	領域の評価				評価改善委員会の評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点						
資料③-1	山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	△	1	×	0	△	1	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。 【評価コメント】 山地領域の得点率は44%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度と同じ得点率であり、令和3年度が「良いレベル○」と評価されていることから、台風14号の被災後、現地環境が回復されていないと考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化の評価が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	山地領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(2)土石流等の土砂災害の発生状況	△	1	△	1	○	2		問題・課題の数	8	8	8	
		(3)自然景観	△	1	△	1	○	2		配点	16	16	16	
		(4)生物生息生育環境の変化	×	0	△	1	△	1		得点	7	7	11	
		(5)産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	44%	44%	69%	
		(6)湧水緩和機能の状況	△	1	×	0	△	1		得点率の評価	△	△	○	
		(7)洪水緩和機能の状況	△	1	△	1	△	1						
		(8)砂防施設容量	△	1	○	2	○	2						
資料③-2	ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	△	1	×	0	△	1	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 ダム領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和3年度と同じ得点率であり、令和4年度が「普通レベル△」と評価されていることから、台風14号の被災後、現地環境が回復してきていると考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(10)利水容量及び(14)生物生息生育環境の変化、(15)生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(10)利水容量	×	0	△	1	△	1		問題・課題の数	7	7	7	
		(11)取水機能の維持	○	2	△	1	△	1		配点	14	14	14	
		(12)放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	7	6	7	
		(13)利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	50%	43%	50%	
		(14)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
資料③-3	河道領域	(16)付着藻類の変化	×	0	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。 【評価コメント】 河道領域の得点率は50%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和3年度及び令和4年度を上回る得点率であり、現地環境が改善してきていると考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(16)付着藻類の変化及び(18)生物生息生育環境の変化が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	河道領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(17)河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		問題・課題の数	9	9	9	
		(18)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		配点	18	18	18	
		(19)瀬・淵の状況	○	2	×	0	×	0		得点	9	3	6	
		(20)橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率	50%	17%	33%	
		(21)護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	×	×	
		(22)取水の安定性	△	1	×	0	△	1						
		(23)治水安全度	△	1	×	0	△	1						
資料③-4	河口・海岸領域	(25)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。 【評価コメント】 河口・海岸領域の得点率は36%であり、得点率の評価から令和5年度は総合的に「悪いレベル×」と評価される。令和4年度を上回る得点率ではあるものの、令和3年度を下回っており、台風14号の被災後、現地環境が回復していないと考えられる。 総合土砂管理上の問題・課題では、(28)港湾施設の機能維持及び(30)船舶の航行(操業上)の安全確保、(31)海岸環境の変化、(32)漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後、改善に向けて重点的に取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R5	R4	R3	○ △ ×
		(26)防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27)親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28)港湾施設の機能維持	×	0	×	0	△	1		得点	9	7	10	
		(29)治水安全度	○	2	○	2	×	0		得点率	50%	39%	56%	
		(30)船舶の航行(操業上)の安全確保	×	0	×	0	△	1		得点率の評価	△	×	△	
		(31)海岸環境の変化	×	0	×	0	△	1						
		(32)漁業の操業環境	×	0	×	0	△	1						
		(33)氾濫発生時の被害状況	○	2	×	0	△	1						
		【耳川水系目標】 耳川をいい川にする 【評価コメント】 令和5年は、山地領域・ダム領域・河道領域・河口・海岸領域が普通レベルであり、耳川水系全体として、総合的に普通のレベル「△」と評価される。令和4年度の台風14号の被災から、ダム領域および河道領域、河口・海岸領域において回復傾向が見られるものの、山地領域では依然得点率は低い状況となっている。 各領域において悪い評価の問題・課題については、今後もモニタリングを継続しながら、改善に向けて各種行動計画を推進していく必要がある。	耳川水系	R5	R4	R3	○ △ ×							
			問題・課題の数	33	33	33								
			配点	66	66	66								
			得点	32	23	34								
			得点率	48%	35%	52%								
			得点率の評価	△	×	△								

着色凡例

- : 治水面 (防災面)
- : 利水面 (水利用面)
- : 環境面

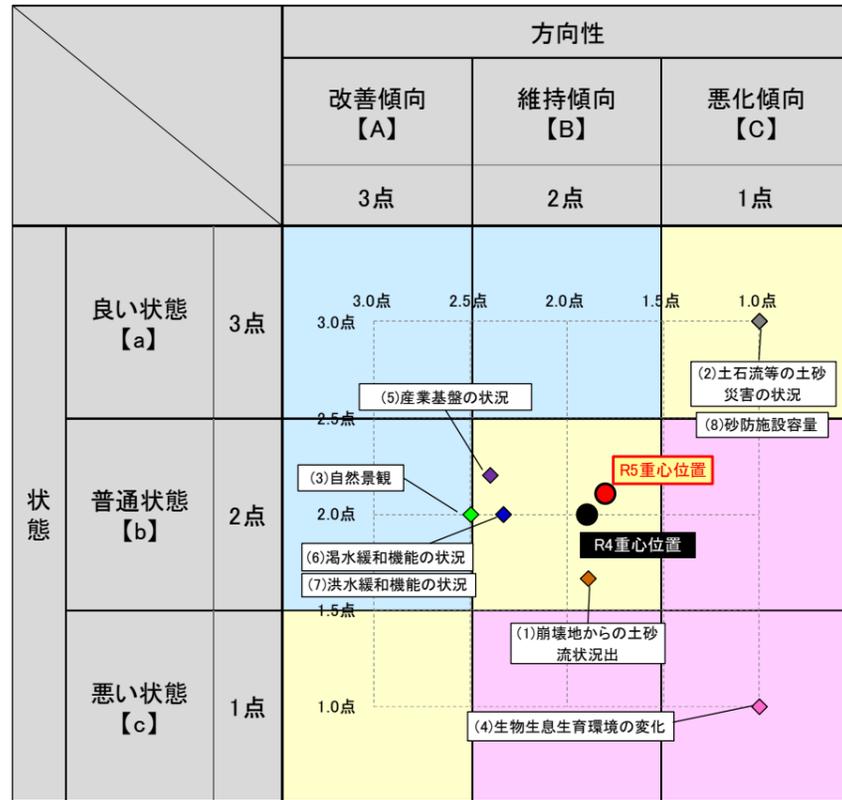
評価凡例

- : よい、問題なし
- △ : 悪化が懸念、懸念事項あり
- ×
- : 問題なく良いレベル
- △ : 普通のレベル
- ×
- : よい、問題なし
- △ : 悪化が懸念、懸念事項あり
- ×
- : 問題なく良いレベル
- △ : 普通のレベル
- ×

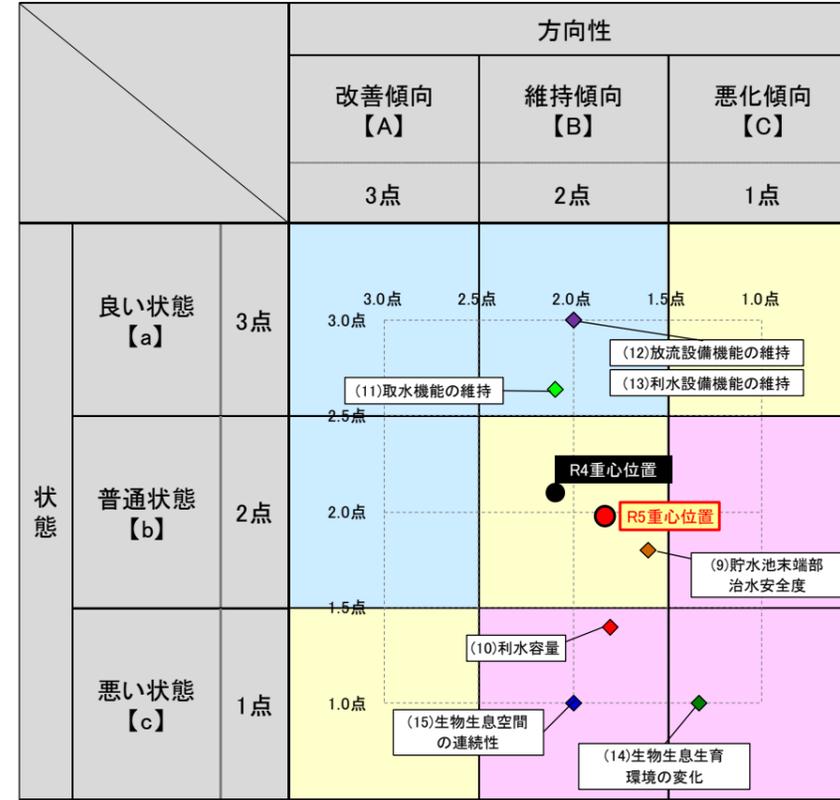
課題評価の凡例

- : 問題なく良いレベル
- △ : 普通のレベル
- ×

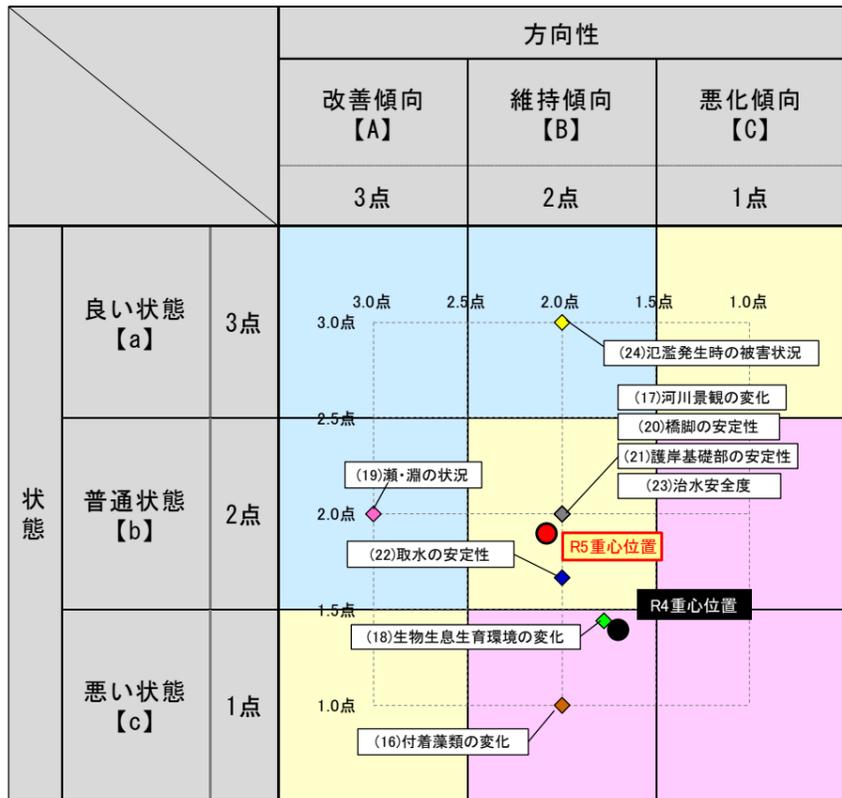
山地領域の総合評価（令和5年度）



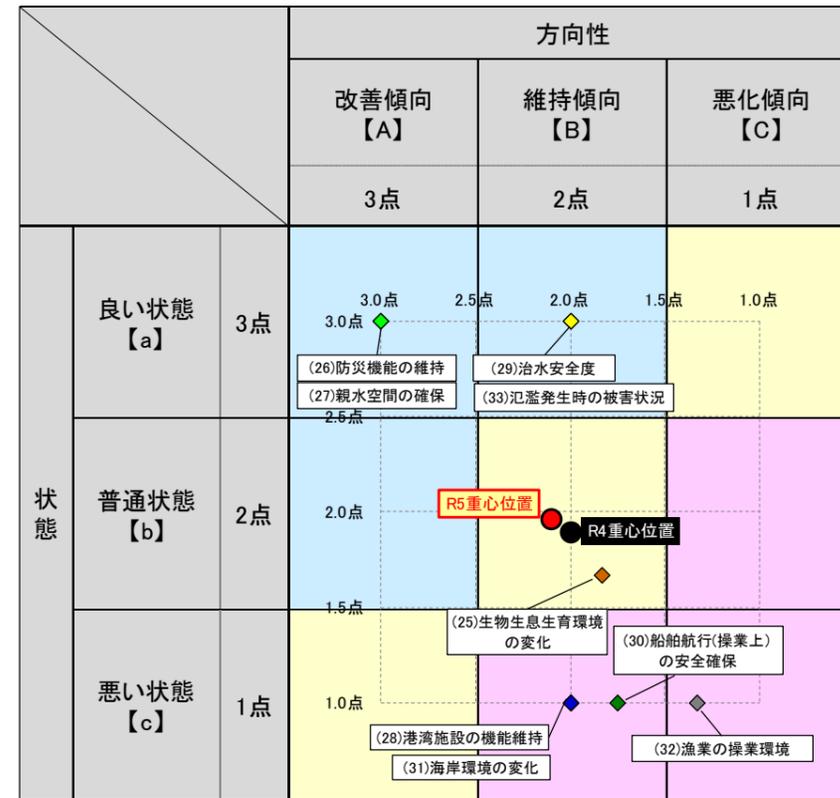
ダム領域の総合評価（令和5年度）



河道領域の総合評価（令和5年度）



河口・海岸領域の総合評価（令和5年度）



4. 開催状況（第12回 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ 令和6年3月14日 於：美郷町西郷ニューホープセンター）

<山地領域>



<河道領域>



<ダム領域>



<河口海岸領域>



ワーキンググループ アンケート結果

ワーキンググループでは、現地で参加した委員を対象としてアンケートを実施した。

1. アンケート用紙

耳川水系総合土砂管理 山地・ダム・河道・河口海岸領域ワーキンググループ アンケート

耳川を良い川とするためのワーキンググループの活性化のため、アンケートにご協力をお願いします。

<ワーキングについて>

各質問について、該当項目に○印をつけてください。

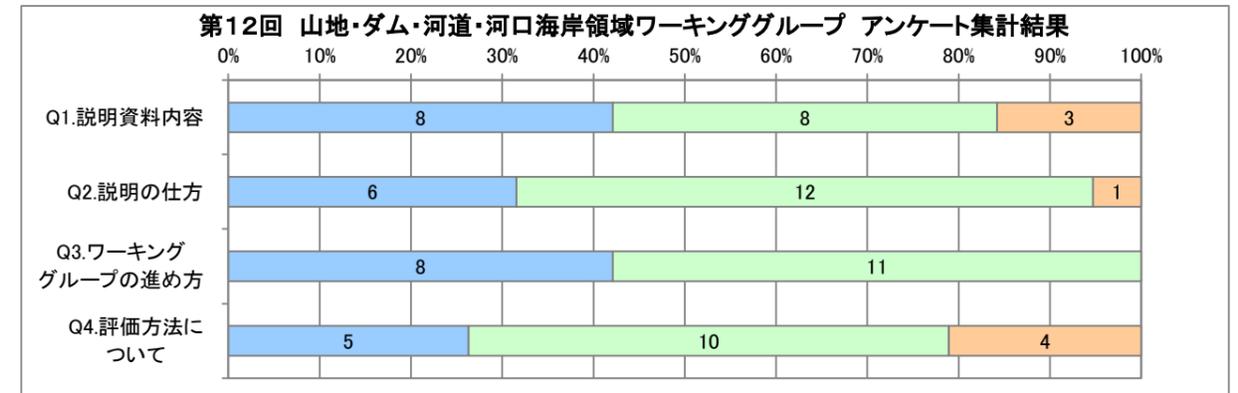
		①	②	③	④
Q1	説明資料内容	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった
Q2	説明の仕方	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった
Q3	ワーキンググループの進め方	とても良かった	ふつう	悪かった	非常に悪かった
Q4	評価方法について	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった

会の進め方について改善すべき事項や内容等についてアドバイスをお願いします。
(会場の設備に関する事など、なんでも構いません。)

<耳川について>

グループ討議で言いそびれたこと、事務局に伝えておきたいことなどがあればお願いします。

2. アンケート結果①：ワーキングについて



凡例	①	②	③	④
	わかりやすかった	ふつう	分かりにくかった	分からなかった

会の進め方について改善すべき事項や内容等についてアドバイスをお願いします。 (会場の設備に関する事など、なんでも構いません。)

- ・同じ項目が各グループの評価に出てきているのでは。
- ・2グループが同室では発言内容が聞きづらい。
- ・項目によっては、細部の説明が不足しているところがあった。
- ・年度末は忙しいので、開催時期をずらしてほしい
- ・資料も分かり易く、現在までの状況が細かくてよかった。
- ・会場は広く、グループ討議等もスムーズに行われた。

3. アンケート結果②：耳川について

グループ討議で言いそびれたこと、事務局に伝えておきたいことなどがあればお願いします。

- ・ヒアリング評価では1つでも「悪い」項目があると評価が「悪い」となるが、総合評価では片方が「悪い」評価であっても、もう片方が「良い」評価であれば「普通」評価になることについては、評価方法を検討すべきではないかと考える。
- ・水質は最重要だと考えているので、水質汚濁の項目を強化し、生活排水についても盛り込むべきである。
- ・台風時の通砂によって下流の砂利の状況も変わると思われるが、適切な対処を実施して耳川をよりよくしていかなければと感じた。
- ・通砂運用を長期的にみると自然の河川に近づくと聞いたが、現在河川を利用する流域の人たちは川離れが著しい。
- ・耳川下流域と上流域では評価指標を見直すことも必要ではないか。
- ・通砂は良いが下流については小石・砂等で漁場がなく、小魚も少ない